

## 第 2 回 募金広告部会議事録

1. 日 時： 2009 年 9 月 4 日（金） 19：00～
2. 場 所： 第一鉄鋼ビル 9 階会議室
3. 参 加 者（順不同敬称略）：
  - 市瀬豊和（事業委員長）、福島六一（部会長兼経済学部代表）
  - 太田優子（副部会長兼法学部法律学科副代表）、山口弘継（文学部委員）
  - 山崎哲史（兼経済学部委員）、増岡 聡一郎（兼経済学部委員）
  - 大橋芳和（兼商学部委員）、早坂靖志（兼理工学部委員）
  - 椎津雅夫（兼法学部政治学科代表/代理出席）、濱田竜哉（兼事業委員会総務担当）
4. 議 事：
  - 1) 現在の募金金額について  
福島部会長より、現在の募金に関する経過報告があった。
    - a) 現在迄の募金総額は約 1500 万（目標の約 50%）
    - b) 募金者の 126 三田会総数に対する割合は 3%。97%の人がまだ募金をしていない。  
この同期たちに如何に募金をしてもらうか、当部会で手法を考えて行きたいとの発言があった。
  - 2) 「感謝状」について
    - a) 掲載不可の方への対応
      - ・「氏名掲載可」と「掲載不可」の方への文面は区別し、2 通りを作成する。
    - b) 文面について
      - ・義塾から送られる感謝状を踏襲し、同期の関係乍ら礼節を重んじた文面とし、振込用紙も同封はしない事とする。増岡委員から提案のあった文面を基本に進めていく事となった。
    - c) 会社宛の感謝状について
      - ・文面等、後日検討を行うこととなった。
  - 3) 募金活動方針について（山崎委員作成の資料参照）
    - a) 確認事項
      - ・募金勧誘範囲は「126 三田会」とし、これから卒業 25 年記念事業活動を迎える後輩に対しては募金活動をしない。

1981年から1985年の間に同学年であったことがある仲間＝126三田会の根幹である「1985年頃に慶應義塾大学を卒業した仲間」にアイデンティティーを感じる者たちの会」に準ずる方々に理解を求め活動を行う。

b) 150周年募金の振替はほぼ完了している。

- ・期限は、本年12月までを1期、3月15日までを2期とし、卒業式のあとも即時閉鎖することはない。
- ・幹事として、既に150年募金を済ませている人に依頼する場合は、卒業25年記念事業への振替＝ダブル・カウントを承認頂く為の説明文を参考に必ず基本にしたがって行う。
- ・面識のない同期などへの一斉のお願いは一度だけ行う。

c) 活動イメージ

- ・募金活動経験者の発掘
- ・サークル・ゼミ等や一貫校を中心とする出身校の繋がりを有効利用する。
- ・150周年募金の有効利用。

d) 具体的な活動方針

- ・幹事、クラス委員のサークル、ゼミ、出身校を調査して募金の輪を広げていく。
- ・塾創立150周年募金は今後も有効活用する。その為の「Q&A」を作成する。
- ・振込用紙は「126三田会同窓会事務局（石本事務所）」にあるが、事務局より学部割り当てをしてもらい、効果的に配布して募金依頼をする為に学部配布する。
- ・立替郵便費等の経費は「126三田会宛の領収書」にて精算する。

e) 発刊予定の記念誌への掲載広告募集活動について

\*過去における広告掲載について

- ・毎年広告掲載を頂いている企業は「BRB」の1社。複数年掲載を頂いている企業は、それぞれの年度三田会＝同窓会との繋がりがあった為、掲載に結びついているものと思われる。したがって我々もほぼ100%同期関連の企業に依頼していく事になる。

\*具体的戦略について

- ・複数掲載されている企業は、毎年の個別依頼ではあるが、掲載広告をお出し頂ける可能性が高い企業と言えるのではないかと。
  - ・広告掲載のお願いのツールとして過去の記念誌の表紙コピーを利用してはどうか？
- 次回記念誌部会に福島部会長、増岡委員が出席して提案する。
- ・広告依頼経験者の発掘と活用。

4) その他

- ・次回会議予定：10月1日（木） or 10月2日（金）で調整する事とする。

以上

（文責：福島六一、濱田竜哉）